指導事例集ｐ．９５

児童に見られるつまずき

　何倍かを求めるときに、わり算を使うことができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　２つの数量の関係を図に表し、基準になる数量が何かを考えさせることで、「倍」という表現が用いられていても、かけ算を用いる場面でないことを理解させる

１　学年・単元名　　第３学年　倍とわり算（数量関係領域）

２　単元目標

「○ｍの何倍か」を求めることは、「○ｍの何こ分」を求めることと考えることができる。

３　単元の内容

・わり算の意味や式のよみ方、かき方

**・倍の意味（３×□＝２１）**

・数量の関係を図に表す

・わられる数とわる数の意味

４　本時の目標

何倍にあたる数は、わり算を使って求めることを知り、答えを求めることができる。

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入  展開  まとめ | １　問題を読み、題意をつかむ。  赤いロープは、青いロープの長さの何倍ですか。  ２　めあてを考える。  図を使って、何倍かをもとめる計算のしかたを考えよう  ３　自分で考える。  ・絵や図、言葉などを使って自分の考えをノートにまとめる。  参考：ノート  ４　考えを交流する。  ・考えたことを絵や図など使って説明する。  ５　まとめる  ・何倍かをもとめるときも、わり算を使う。  参考：ノート  ６　適用問題をする  参考：ノート  ７　ふり返る | ・テープを使って提示し、題意を視覚的につかませるようにする。  ・**●倍を言い換えると●つ分であることを確認する。**  ・めあてを児童の言葉を使って書く。  ・**絵や図に表すことで、式につなげさせる。**  ・絵や図、言葉の説明など様々なやり方を認める。  ・早く考えることができた児童には他の考え方でとくことができないか声をかける。  ・黒板に図を書かせ、それをもとに説明させる。  ・**図と式を関連させ、自分の考えを伝え合うことで「何倍ですか」の意味について理解を深めさせる。**  ・分かったことや考えたことを書くよう声をかけることでふり返りの視点を明確にする。 |